

もみじ園の整備計画

もみじ園の背景と課題

もみじ園は、当時衆議院議員であった高橋家の別荘として明治29年に建てられた。

その後、戦争の混乱や時代の流れで、管理が行き届かず長きに渡り荒れた状態が続いていた。

昭和35年に巴ヶ丘山荘の隣に越路中学校の建設が始まり、これによりこの一帯を自然・文教ゾーンとして何時しか町づくり計画に位置付けられてきた。これを期に地元からは、庭園の整備を望む声が高まり、促進期成同盟会までも立ち上げ町に働きかけてきた。

要望を受けた町は、朝日酒造(株)と強い結びつきを築き、連携を図りながら昭和60年に庭園の調査を開始し、調査結果は非常に価値の高い植物庭園であることが判明した。

調査結果を踏まえ、公園整備として始まり、平成元年に工事が完成し一般公開を開始した。

当時はまだ、知名度も低く限られた観光客しか見込まれていなかったが、ここ数年観光協会の強い働きにより、今では県内外から大勢の観光客が訪れるまでになってきた。

特に秋、紅葉の時期になると長岡南越路スマートインターが開設されてからは、一段と地域以外からの観光客が急増し、観光バスでの来園者も増え賑わいを見せている。

一方、来園者からは、近くに駐車場やトイレが無いと不満の声が高まり、ニーズに応えられていないのが現状である。

お客様のニーズに対応するためには、ただの見せる観光から儲かる観光地として施設整備を行うことが、急務である。

整備の目的と成果

観光需要が高まる今日、既存の有名な名所・旧跡への物見遊山から参加型、体験型も急増し飾らないありのままの自然や田園風景が価値を高めてきたように思える。

越路の観光資源としては、越路地域の理念である「ほたるの舞う里づくり」に専念し、原風景が残る中、日本三大稲荷に匹敵する宝徳稲荷大社、国重要文化財に指定されている旧長谷川邸、隣接して三波春夫記念像、そして素朴ながらももみじ園や枳形山が代表格としてある。

また、近年は越路にあるヨネックス・岩塚製菓・朝日酒造の越路三大企業と言われている、企業見学に訪れるお客様も増えており、特にもみじ園に隣接している朝日酒造は蔵見学プランとして取り入れた、食事処やお土産品に力を注ぎ、年間を通してPR活動を行うなど、今では観光施設として定着している。

このように、観光の場としては多くあるにも関わらず、残念ながら今一つ観光地として物足りなさを感じえないし魅力を感じられない。

それが、なぜかと考えると観光地としての施設整備が不十分でもあり、単品で商業振興と観光が結びつかないのが大きな要因の一つでもあると考える。

今後それを打破するうえでも、年間を通して誘客が出来るよう観光ルートを確立し住人協働そして、商工会とさらなる連携を図り観光地としての施設整備を行う。

その第一弾として、もみじ園を核に隣接する自然公園、朝日酒造と連携を図り、人が人を呼ぶ観光ルートの確立。

そのための施設整備として、もみじ園に観光施設として必須条件である、公衆用トイレの設置、お

土産品販売場所、そして朝日酒造との連携を強化するもみじ園から朝日酒造まで歩いて行ける遊歩道の設置が急務である。

地域振興の一環として、ただの観光から脱却し、儲かる観光地として一步踏み出すことが重要なことである。

効果

誘客を図るための手法

ほたるの舞う里越路を確立するため、各種イベントを通じて新たな産業として育成

ほたる祭り・・・自然公園で開催（現在は、塚野山地域で開催）

自然と環境をテーマに米作り（ほたるの舞う里づくり）

契約栽培米・・・朝日酒造（酒米）

岩塚製菓（米菓米）

その米を使用した酒・米菓・餅・・・ブランドとしてもみじ園で販売

企業と連携することの相乗効果

小・中学生の情操教育の場を提供（ほたる飼育研究・研修を受けもみじ園で、ホラテアイトを実施）・・・

環境意識向上

知名度を高めることにより商工業振興に寄与

第1分科会での意見

もみじ園周辺の整備については、大きな課題であり関心もあった。

具体的に継続事業の中に組み込まれていることが理解できた。